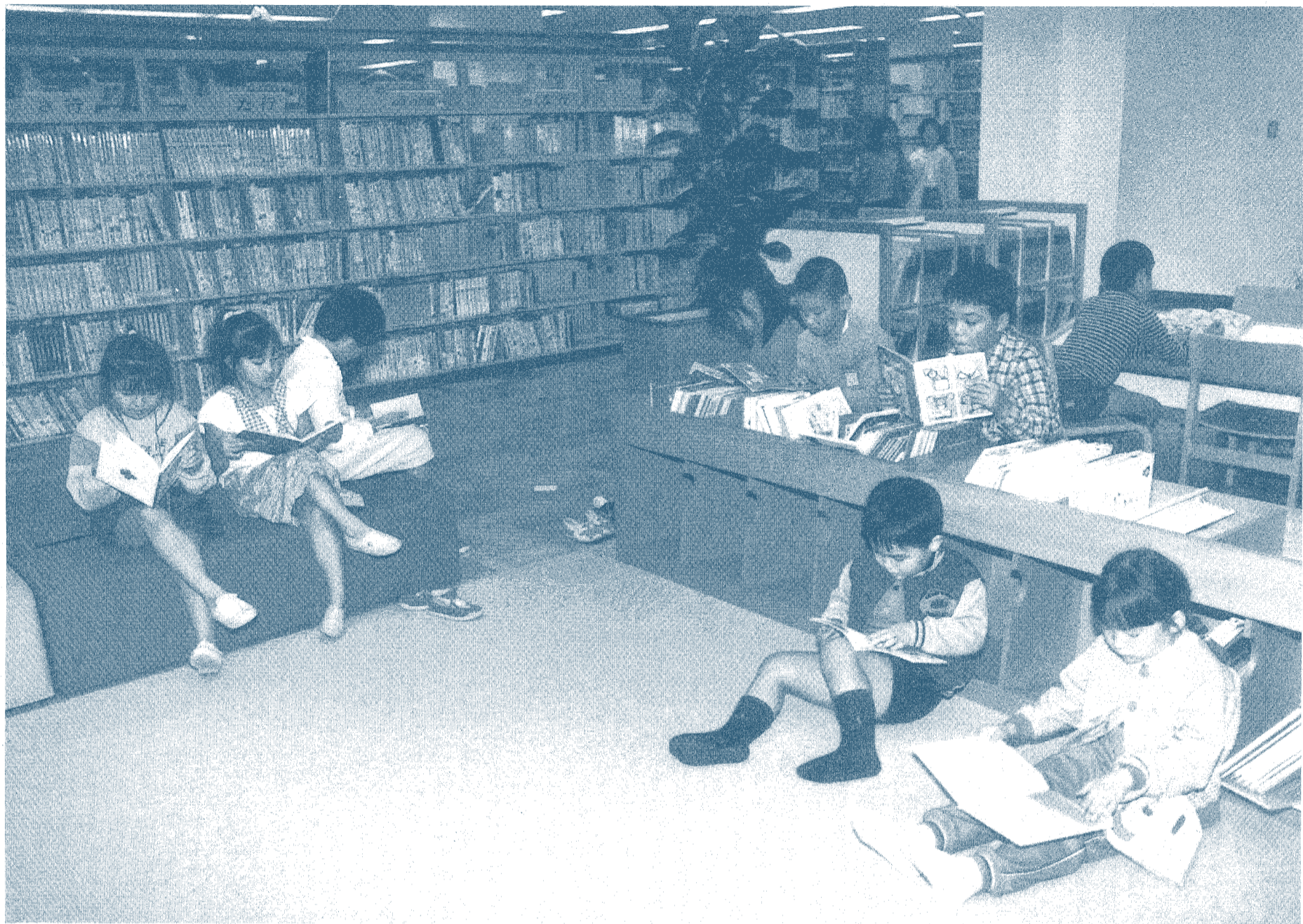


墨田区議会だより

第 58 号

発行 昭和63年10月27日
 発行所 墨田区議会事務局
 〒130 墨田区横網一の6-1
 電話 626-3151(大代表)



「読書の秋」(梅若橋コミュニティ会館内図書室にて)

昭和63年

第3回定例会

「営団地下鉄8・11号線の建設促進」 「都営地下鉄12号線「厩橋駅」の設置」を

全会一致で意見書を議決

墨田区議会は、昭和六十三年第三回定例会を九月二十日から九月三十日まで、十一日間にわたって開きました。今定例会では、区長から提出された「昭和六十三年墨田区一般会計補正予算」及び「墨田区児童育成手当条例の一部を改正する条例」ほか条例二件、並びに「豎川親水河川整備(ヘド口固化)工事請負契約」一件の議案五件を審査し、いずれも原案どおり可決しました。

四名の議員が一般質問

本会議初日の二十日と二日目の二十一日の両日に、各党派の代表が一般質問を行いました。

自由民主党(二名)は、「ファッションセンター構想」「京成押上線の連続立体化」「夏休み中の児童・生徒への指導」等について、又、公明党(一名)は、「放置自転車のリサイクル問題」「教育問題」等について、更に共産党(一名)は、「消費税問題」「教育問題」等について、それぞれ区長、教育長に質問しました。

(二・三面参照)

決算特別委員会を設置

定例会最終日、三十日の本会議では、各常任委員会で審査した議案五件を議題とし、すべて全会一致で可決しました。

次に、昭和六十二年度墨田区一般会計歳入歳出決算など決算報告三件が提案され、提案理由の説明を聴取した後、委員二十名をもって構成する決算特別委員会を設置して審査を付託するとともに、閉会中の継続審査とすることと決定しました。

(三面参照)

意見書三件を議決

議員から提案された「営団地下鉄八号線の建設促進に関する意見書」及び「営団地下鉄十一号線の建設促進に関する意見書」並びに「都営地下鉄十二号線「厩橋駅」の設置を求める意見書」三件を全会一致で議決し、関係機関へ提出することとしました。

(三面参照)

続いて、「墨田区教育委員会委員任命同意」の議案二件が区長から提案され、委員会付託を省略し、起立表決を行い、原案どおり同意しました。

最後に区長からあいさつがあり、第三回定例会を閉じました。

第3回定例会 会議開会状況

第3回定例会中に開いた会議は次のとおりです。

日	議案	委員	会議
9月20日	運本	委員	会議
9月21日	本	委員	議
9月22日	厚生	委員	議
9月26日	防衛	委員	議
9月27日	建設	委員	議
9月28日	区民	委員	議
9月30日	総務	委員	議
	運本	委員	議
	区議	委員	議
	本	委員	議

一般質問

京成押上線の連続立体化に努力する

区長答弁

「ファッションセンター」構想の推進を 自由民主党

問 新庁舎へ移転後における区第一庁舎跡地は、売却せずに区独自の開発が行われることとなつた。区の貴重な財産が売却されず済むことは大変喜ばしいことである。

庁舎跡地の開発については、両国地区を中心にファッション関連の集積が著しく高いことから、この地を「ファッションのまち」として整備していく中で、ファッション関連産業の振興に役立つ施設とすることが最も適切であると考え、先般提出された「東京国際ファッションセンター構想」のうち、①財源の負担を含めた資金の運用

② 民間活力の活用と区の自主性の確保 ③ 対象とするファッション関連産業の範囲 ④ 検討委員会での検討内容と構成メンバーについて伺う。

又、庁舎跡地は単独開発とせず、隣接する両国中学校やNITなどの公共、準公共地を含めた共同開発が重要な課題である。こうした複合的、総合的な開発によってファッションセンター構想の推進、庁舎跡地地域の発展と両国地区のまちづくり、更には墨田区の産業・文化・教育等各方面の活性化が図られると考えるが、区長の見解を伺いたい。

答 区民の貴重な財産である第一庁舎跡地には、ファッション関連産業だけでなく、機械金属関連や他の区内企業が、都市型産業として求められているファッション性を身につけるための基盤施設、「ファッションセンター」を構築することが地域活性化に重要であると考える。建設にあたっては、極力、区

自由民主党

民負担にならないことを基本的に事業手法等についてファッションセンター検討委員会の中で議論していただく。又、民間活力を導入した場合は、資金面や経営のノウハウなどが活かされる

と考えるが、施設の運営に区の意見を十分反映することが肝要である。

次に、ファッション関連産業の範囲については、ニット、衣類、靴、カバン、ガラス等の身の回り品から装飾メッキ等も含む多様な業種を広く包括するものと考えている。

又、本構想の推進にあたって、広く区民の方々のご意見を伺う場として、学識経験者、区内の産業者、区議会の方々に構成する検討委員会を準備している。本年度内に基本構想をとりまとめ、具体的な計画は来年度半ばを目途としたい。

なお、周辺地域との一体的開発については、隣接するNITや両中などを含めた総合的整備を構想することが望ましい方向と考えており、今後、早急に意向を把握し、可能性のあるものは反映していきたい。

京成押上線の連続立体化促進を

問 京成押上線荒川鉄橋の高架化がいよいよ具体化に向けて協議に入り、設計などにも着手されていると伺っている。

現在、どのような状況で進められているのか、又、事業のタイムスケジュールについて伺う。

更には、この機会に、区民の悲願である京成押上線の押上駅までの連続立体化を図ることは、まさに千載一遇のチャンスであると考える。幸いにして東京都では、昨年度からこの連続立体



荒川駅周辺

化事業として国庫補助を受けて調査を実施しており、本区においても「京成押上線の立体交差化とまちづくり」の調査結果がまとめられた。

それによると京成押上線の踏切が、交通渋滞の問題のみでなく、沿線のまちづくりに大きなネックとなっていることを指摘している。

連続立体化事業として都市計画事業に位置づけられるためには、今後どのような取り組みが必要か併せて区長の見解を伺う。

答 京成押上線荒川鉄橋の架け替え工事については、建設省河川改修整備事業として行われるもので、現在、京成電鉄が具体化に向け本区を含めて関係機関と協議を行っている。

この事業のタイムスケジュールとしては、本年度から来年度にかけて測量及び設計を行い、工事の完成は昭和七十一年を目標としていると伺っている。

又、荒川駅周辺の開発に関しては、かねてより地元から要望のあった補助百二十号線からの駅へのアプローチの確保や、地域分断解消のための道路の確保及び駐輪場の確保等について事業者が要望していくとともに、区としても京成電鉄との協議の中で種々方策を考えていきたい。

更には、京成押上線連続立体化については、この重大な機会をとらえ、促進のための集中的な取り組みをすべきと考えている。

なお、連立事業として位置づけられるためには、鉄道と幹線道路とが二カ所以上で交差することなど制度上の要件のほか、沿線市街地のまちづくりが実現されることが重要不可欠となっております。今後、議会や地元の方々と一体となって効果的な運動を進めたいと考えています。

夏休み中の児童・生徒の指導は 夏休み明けの九月、小中学生の自殺という暗いニュースが恒例的に報道され、その原因の一つに「宿題がでなかつた」など「宿題」に関する理由が挙げられている。

夏休みという長期休業中の宿題については、慣習的な学習方法として、半ば義務的に、又、半強制的に出されていると思うが、多くの児童・生徒は、その膨大な量の宿題に追われ、心身のリフレッシュなどの余裕はないのではないかと感じている。

もちろん、夏休み中、何の目的も目標も与えずに過ごさせるのではなく、学習の宿題に重きを置くよりも、むしろ日常生活を営む上での必要なルールや習慣、生命の尊厳、思いやりの心などを育てることが大切である

と考える。自殺などの不幸な事例を起さないためにも、教育委員会や校長会などが一体となって更に研究を重ね、明るく健康な児童・生徒を育てていただくよう願ってやまないところであるが、教育長の見解を伺いたい。

答 夏休み中における「宿題」については、法的根拠や文部省の特別な指導はないが、学校制度が始まって以来、全国どの学校でも一般的に宿題が出されているが、その内容と量に問題がある学校もあるのではないかと考える。

区教育委員会としては、夏休みのように長期休業でなければできないような内容、例えば、長編の文学作品の読書や、テレビ・ラジオを活用した学習、長期にわたる動植物の飼育・観察など、子供の独創的な自由研究など、個性の伸長を図るよう指導しているが、なお学校側と研究を深めていきたい。



歩道をふさぐ放置自転車

今後学習だけでなく、自然にふれ合う機会やボランティア活動、外国人との親善交流など内容を工夫し、二十一世紀の国際社会で活躍できる児童・生徒の育成に努めていきたい。

この問題については、本区の調査状況と、リサイクル事業実施に向けての区長の決意を伺う。

答 放置自転車のリサイクル事業については、東京都・市町村放置自転車行政連絡協議会の結論にゆだねてきたが、昨年の同会議で、「撤去自転車の処理要綱」など、一定の条件を整備すれば法の拡張解釈のうえで、放置自転車のリサイクルは可能であり、地域の実情に合わせたうえで、リサイクルを実施する」との方

向がうち出され、本区もこれを受け、リサイクル事業実施の方

向で調査・研究を進めている。その調査によれば、昭和六十三年度の実績から勘案して年間一千台前後がリサイクルの対象になると思われる。又、リサイクル自転車をどのような形で利用するかについては、販売という手段の他に、公用、公共用、海外援助等様々な方法があり、自転車業界との調整も含め、本区の実態に合ったものを検討し、近く結論を出したいと考えている。

放置自転車リサイクル事業の早期実施を 公明党

問 引き取り手のない、いわゆる放置自転車に頭を痛める自治体が多い中で、放置自転車のリサイクルに取り組みすべきであるという我が党の主張に対して、山崎前区長は「放置自転車の所有権を自治体が取得できるか」という点と、区内の自転車業界との調整をどうするかという点の二つの問題がある」と答弁している。

しかし、所有権の問題については、捨てた無主物は拾

た人の物という、民法の「無主物先占」の考え方が定着しつつあり、又、リサイクル自転車を販売する際に、点検・整備・販売等の一部事業を委託することで自転車業界との関係をうまく調整している自治体もあり、本区もリサイクル事業を早期に実施すべきである。

又、本区では、年間三千七百台前後の自転車が引き取り手のないまま廃棄処分になっており、このうちの千台から千二百台ぐ

時間数は四、五時間と少なく、子供達にとって単なる興味や刺激にとどまっている。そこで、文部省とのカリキュラムとの整合性を図りながら授業時間を増やし、卒業までには簡単な日常英会話ができる程度にまですべきであると思うが、教育長の考えを伺いたい。

又、昨年「児童、生徒の学校外学習活動に関する調査研究協力者会議」で塾問題解決のための指針となる報告書が出され、東京都教育長からも各区あてに通達が出されているが、依然として塾通いの子供は多く、授業態度が悪化する等、学校の授業に支障がでてきている。

本区もこの通達を受け、補充授業に力を入れる学校を増やすよう努力すべきであると思うが教育長の見解を伺いたい。

答 中学校の英語の授業に外国人講師を導入したことは、生徒にも好評であったが、この事業をより充実させるためには、英語の時間数との関係、高校入試との係わり、生活習慣の違いからくる生徒指導上の問題、日本人教師との役割分担など、検討課題が多くあるため、これらを踏まえたうえで更に充実に向けて努力していきたい。

小中学校の教育目標や内容は、本来、授業を中心とした全教育活動を通して、全ての児童・生徒に習得させることが望ましい。しかし、生徒個人の能力差、学歴社会の影響等から塾通いの子供が多くなっている。

当区教育委員会としても、都からの通達が出される前から、生徒の基礎学力の向上に向けて指導してきたが、今後とも、朝の学習会、放課後でのグループ・個別指導、質問教室を含め、学校として今まで以上に創意工夫し、生徒個人の能力が最大限に伸びるよう補充授業の充実を一層の指導を図っていきたい。

消費税導入に反対せよ

日本共産党

問 今回の消費税は出産から葬式まで、まさに人間が生きていることすべてに課税されるまじりもない大型の間接税である。当区議会としても三度にわたり意見書などを採択し導入に反対してきた。又、区長も昨年の選挙で売上税反対を最大の公約として当選された。まずこの消費税をどう認識しているか。

第二に消費税が区財政等に与える影響額を示されたい。又、消費税導入による電気・ガス税の廃止は地方自治体の権能を狭くすると考えるが、区長会が関係機関に提出した地方財源の確保などについての要望書は消費税導入を前提としたものであり、自治体固有の付加徴収権の放棄を容認することではないか。又、消費税の罰則規定に不安を抱く商業者の営業とくらしを守る立場からも区長は導入反対を表明すべきと考えるがどうか。

答 将来の高齢化社会に対応するため何らかの形で税制改革は必要であり、国民の大多数のコンセンサスが得られること、地方財政の運営に大きな支障を及ぼさないことが新税導入の前提である。今回の消費税は一定の改善がなされており、現在、国会で審議をめぐって折衝が行われているので、区民の意見を参酌しながら区長会等を通じて適宜適切に対応したい。

又、区財政に対する影響額は概算であるが歳入について電気・ガス税の廃止などにより約十八億円の減、増収分は消費税増収約十二億円、差引約六億円の減収が見込まれる。歳出については事業への消費税課税などにより約八億円の支出増となる。以上合計約十四億円が影響額となる。又、固有財源が消費税増収という交付金になることは極めて遺憾であるが、直間比率の見直しという点もあるわけで、いずれにしても地方財源の

確保と地方固有税の保障は今後も国に強く要望していきたい。体罰のない教育を

問 二学期を迎え子供達の自殺があいついでいるが、このような状況についてどのように受けとめているか。又、現代の子供達を取り巻く環境は学校や社会の管理体制や、テストの連続などによりストレスが蓄積されやすく、更にいくつかの体罰の事例も聞く。そこで子供達の生活サイクルが、本当に成長期にふさわしいものにするため、どのような対応と実践を考えているか。又、体罰を容認する傾向に対して教育委員会はどのように受けとめ、指導するつもりか。

次に教育センター建設における用地などの問題について、検討内容と経過、更にその促進について区長の所見を伺う。

答 生命尊重や人間尊重の教育は教育の基本であり、学校・地域・家庭が一体となって不幸な事態を招かないよう努めていかねばならない。その対策として本年四月からヤングテレホン相談を新設した

り、教員の資質向上、各種シンポジウムの開催、両親大学などを通じて生命尊重の教育や家庭教育の充実を図っており、更に努力していきたい。子供の生活サイクルについては学校生活全体を見直しながら、楽しい学校生活ができるよう指導している。又、残念ながら本区にも体罰の実態はあるが、教師の人権意識・教育相談的個別指導・研修の充実及び保護者との連携・校長のリーダーシップの発揮などを重視し、指導を行っている。なお、教育センターに関しては内部で検討を進めているところであり、一定の方向が出たら議会とも相談したい。



区内の小学校

営団地下鉄八・十二号線の建設促進を強く要望

区議会は、今定例会の九月三十日の本会議で、「営団地下鉄八号線の建設促進」及び「営団地下鉄十一号線の建設促進」に関する意見書を全会一致で議決し、十月二十一日、松野議長、佐藤副議長をはじめ、各会派の代表と、区側から区長、都市整備部長が同行し、宮沢大蔵大臣、石原運輸大臣、鈴木都知事にそれぞれ意見書を提出しました。

地下鉄八号線（有楽町線）及び同十一号線（半蔵門線）は、「錦糸町」・「押上」・「東向島」と同一ルートで本区を通る路線ですが、その具体的な建設計画が固まっています。

区の南北を縦貫する大量輸送機関が皆無の状況の本区にとって、八号・十一号線の実現は区民の悲願であり、建設促進に、

都営地下鉄十二号線「厩橋駅」の設置を再度強く要望

区議会は、今定例会の九月三十日の本会議で、「都営地下鉄十二号線「厩橋駅」の設置を求めめる意見書」を全会一致で議決し、十月二十一日、松野議長、佐藤副議長をはじめ、各会派の代表と、区側から区長、都市整備部長が同行し、鈴木都知事に意見書を提出しました。

地下鉄十二号線の環状部の一部が本区を通ることになっていますが、新駅の設置計画では、両国に一箇所設置されるのみであり、本区は交通事情改善のためにも、是非「厩橋駅」を設置されるよう、昨年引き続き、再度強く要望したものです。

これに対して横田副知事は、「地元の方々の熱意はよく理解している。困難な問題が多いが

より積極的に取り組まれるよう強く要望しました。

これに対し、石原運輸大臣は「地元の実情や皆さんの要望はよく承知している。地下鉄の建設は困難な問題が多いが、東京の交通をより便利なものにするために、今後も努力していきたい。」と答えました。



運輸大臣室で（10月21日）

議決した意見書（要旨）

営団地下鉄八号北上線は、従来から、その建設促進を強く働きかけてきた墨田区・中央区・江東区・葛飾区及び足立区にとって、これらの地域を南北に結ぶ唯一の大量輸送機関であり、住民の生活に密着する重要な路線として、一日も早い実現が切望されているところである。

特に本区は、南北を結ぶ大量輸送機関が皆無の状況の中で、区の拠点地域である錦糸町・押上を結び、区を南北に縦貫する八号北上線は、区内の交通不便地域の解消を図るのみならず、区全体の活性化にとつて不可欠なものである。

よって墨田区議会は、政府及び東京都に対し、営団地下鉄八号北上線の建設促進について、より積極的に取り組まれるよう重ねて強く要望する。

営団地下鉄十一号線の建設促進に関する意見書

営団地下鉄十一号線（半蔵門線、松戸までの延伸）は、新たに、区内で最も混雑の激しい常磐線の緩和対策として打ち出されたもので、本区内ルートにおいては、地下鉄八号線を共用し、錦糸町・押上・東向島を経て松戸市に至る路線であり、都心と千葉県北西部を直結する重要な路線である。

特に本区にとつては、区の南北の拠点が結ばれることから、区の将来におけるまちづくりのために、是非とも必要な路線として、一日も早い実現が切望されている。

都営地下鉄十二号線「厩橋駅」の設置を求めめる意見書

都営地下鉄十二号線は、首都東京における新たな交通ネットワークの形成や、交通不便地域の解消、沿線各地域の活性化などに大きく寄与する重要な路線として、その早期着工・早期開業が待たれている。

しかしながら、十二号線の既定ルートにおける駅の位置は、本区内を通過する約一・八キロメートルの間、両国に一箇所設置されるのみとなっており、このままでは、本区は交通事情の改善や隅田川文化ゾーンの形成、さらには、総合庁舎・タウンホールへの利便性を図るうえからも不十分である。

よって墨田区議会は、両国と蔵前の中間地点となる本所一丁目厩橋付近へ「厩橋駅」を設置されるよう重ねて強く要望する。

提出された62年度各会計歳入歳出決算額

会計名	歳入予算現額 歳出予算現額	収入済額 支出済額
一般会計	61,942,663,000円 61,942,663,000	61,993,764,880円 59,533,897,833
国民健康保険特別会計	12,287,308,000 12,287,308,000	12,456,094,958 11,406,780,764
老人保健医療特別会計	10,271,000,000 10,271,000,000	10,277,398,145 10,246,887,856

62年度各会計決算提出される

決算特別委員会を設置

九月三十日の本会議において区長から昭和六十二年度墨田区一般会計、国民健康保険特別会計、同老人保健医療特別会計の各歳入歳出決算報告が提出されました。

この決算のもととなった昭和六十二年年度予算は、「行政改革の推進に伴う行政体質改善と財政基盤の強化」、「文化性豊かで活力あるまちづくりの推進」といった視点から、墨田C1計画作成準備、曳舟文化センターの開館、音楽文化振興の構想作

成、すみだ産業ウィークの開催、区道愛称名案内板の設置、ポータルを利用した教育推進事業等々を新規事業として実施しました。

区議会では、決算報告の提出を受けて、昭和六十二年年度予算が適正かつ効果的に執行されているかどうかを審査するため、二十名の議員により構成する決算特別委員会を設置しました。

この決算特別委員会は、十月二十四日から開会して審査を行っています。

委員氏名は、次のとおりです。

- 決算特別委員会委員長氏名
区道愛称名案内板の設置、ポータルを利用した教育推進事業等々を新規事業として実施しました。
- 区議会では、決算報告の提出を受けて、昭和六十二年年度予算が適正かつ効果的に執行されているかどうかを審査するため、二十名の議員により構成する決算特別委員会を設置しました。
- この決算特別委員会は、十月二十四日から開会して審査を行っています。
- 委員氏名は、次のとおりです。
- 加藤 耕造 松崎 恵子
 - 早川 幸一 堺 美穂子
 - 大久保 明 中村 光雄
 - 平川康次郎 梶 勲
 - 小池 武二 西 恭三郎
 - 村松 重昭 瀧澤 良仁
 - 片倉 洋 樋口 文吉
 - 中沢 進 甚野 緑
 - 乙津 一行 村瀬 政幸
 - 土橋 正造 渡辺 良

